

# ビワ生育情報

千葉県  
平成27年10月号

## 平成27年7～9月の気象

平成27年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は、第1及び第2半旬では平年より低く、それ以外の半旬では平年より高かった。月平均気温は24.5℃で、平年及び前年より0.1℃高かった。

7月1日から10日までは毎日雨が降り、降水量は、第1、第2及び第4半旬では平年より多く、それ以外の半旬では平年より少なかった。月合計は297mmで、平年の172%、前年の540%であった。

日照時間は、第1及び第2半旬では平年より短く、それ以外の半旬では平年を上回った。月合計は208時間で平年の119%、前年の102%であった。

梅雨明けは7月19日頃で、これは平年及び昨年と比べ、共に2日早かった。

8月の平均気温は、第1から第3半旬までは平年より高く、第4半旬以降は平年より低かった。月平均気温は25.7℃で、平年より0.2℃低く、前年より0.2℃高かった。

降水量は、第1から第3半旬までは平年より少なく、第4半旬以降は平年より多かった。月合計は180mmで、平年の135%、前年の290%であった。

日照時間は、第1から第3半旬までは平年より長く、第4半旬以降は平年を下回った。月合計は197時間で平年の90%、前年の92%であった。

台風は14号と16号が太平洋沖を通過し、15号は九州に上陸した後日本海側へ抜けたが、直接の影響はなかった。

9月の平均気温は、第1半旬は平年より高く、第2半旬以降は平年より低かった。月平均気温は22.0℃で、平年より0.9℃低く、前年より0.3℃高かった。

降水量は、第1、第2及び第4半旬は平年より多く、第3、第5及び第6半旬は平年より少なかった。10日に本州に上陸した台風18号の影響で線状降水帯が発生し長雨となったこともあり、9月上旬としては、昭和43年に観測を始めて以来最も多くなった。月合計は449mmで、平年の204%、前年の368%であった。月合計値は、昭和43年に観測を始めて以来3番目に多い記録であった。

日照時間は、第1、第2及び第4半旬は平年より短く、第3、第5及び第6半旬は平年を上回った。月合計は129時間で平年の88%、前年の72%であった。

表1 平成27年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	21.1	22.9	22.5	190	38	25	1	21	21
	2	20.8	23.4	23.4	76	36	12	11	23	19
	3	25.8	24.6	25.2	0	36	7	56	25	43
	4	26.0	24.6	23.5	31	21	12	33	28	18
	5	26.0	24.8	25.4	1	22	0	46	33	42
	6	26.7	25.8	25.9	0	22	0	61	44	61
月平均/計		24.5	24.4	24.4	297	173	55	208	175	203
8	1	27.9	25.9	27.0	0	19	0	58	37	53
	2	27.1	26.2	26.2	0	26	12	53	37	32
	3	27.1	26.3	26.0	7	25	26	39	36	29
	4	25.8	26.1	26.9	98	15	0	6	35	63
	5	24.7	25.9	25.6	20	19	8	32	35	32
	6	22.2	25.4	21.8	56	29	18	9	40	5
月平均/計		25.7	25.9	25.5	180	133	62	197	220	213
9	1	24.9	24.8	23.2	29	25	34	25	31	34
	2	23.2	24.3	22.4	278	39	23	4	28	20
	3	22.7	23.7	21.4	0	25	43	39	25	36
	4	20.7	22.8	20.7	102	43	2	16	22	16
	5	20.4	21.4	21.1	34	48	20	24	20	34
	6	20.3	20.4	21.2	8	47	0	21	20	41
月平均/計		22.0	22.9	21.7	449	220	122	129	146	180

## 樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」は9月17日で、平年より2日遅く、前年より1日早かった。「大房」は9月17日で、平年より3日、前年より9日早かった。「田中」が9月14日で、平年より2日、前年より4日早かった。花房の発現は、「大房」及び「田中」は平年より早い。花芽数は平年に比べて多く、花房数の調整が重要である。

夏枝及び秋枝の発生は平年並みで、樹の生育は順調である。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.17	9.15	9.18
大 房	9.17	9.20	9.26
田 中	9.14	9.16	9.18

平年：1985年～2014年の30年間の平均

## 台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、4個の台風が日本列島に上陸した。本県のビワ産地では大きな被害はなかったが、倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

### 11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

#### 摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では1樹の全新梢数の50%の枝に花房を残す。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝(花房の枝)の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を著しく延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

#### アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大形のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので短期間のうちに、甚だしい落葉を見ることがある。また排泄物はすす病を誘発する。

防除は発生状況を見て随時行うが、発生初期が効果的である。11月はナシなどから移ってきて繁殖期に入るので、この時期の防除は春の発生を抑えるために有効である。防除に当たっては、農作物病害虫雑草防除指針に従って行う。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>